



後ろ受け身

平成 29 年度中学校武道授業(柔道)指導法研究事業



支え釣り込み足



横四方固め

平成 29 年度中学校武道授業(柔道)指導法研究事業(主催=日本武道館、全日本柔道連盟、日本武道協議会)は6月16～18日の3日間、東京・春日の講道館で、研究者25名(各ブロック代表の9名を含む)が集まって行われた。本事業は昨年度より中学生を研究協力者として集め、各ブロック代表の研究者が作成した指導案を用いて中学生に模擬授業を行いながら、研究協議を進める形で行われている。2年目の今年度は評価をテーマに置き、指導内容を評価するときの観点を確認しながら行われた。

■ 1 日目 (6 月 16 日)

開講式に続いて、各ブロック代表の研究者が作成した指導案をそれぞれ発表した。翌日の模擬授業に向けて、評価の観点などについて確認が行われた。

■ 2 日目 (6 月 17 日)

この日は研究協力者(練馬区立貫井中学校生徒35名〔柔道部員1～3年生〕、杉並区立和田中学校生徒16名〔柔道未経験〕)を集め、各ブロック代表の研究者が提示した指導案に基づいて模擬授業を

展開した。すべての模擬授業で評価の場面を作り、どの観点から評価するのかを確認しながら行った。

● 下田勝己研究者

生徒は後ろ受け身、横受け身が既習の前提で、前回り受け身の授業を行った。段階的な指導のさわりとして、受けが四つ這いの姿勢で前回り受け身を行い、スキルテストでは3段階で評価した。

● 松本好司研究者

寝技の学習が初めてという前提で1回目のけさ固めの授業を行った。けさ固めのポイントを4つ示し、3人組を作って、受け、取り、確認する者の役割分担をした。教師が示したポイントができていないかを見て、技能を評価した。

● 田埜祐一研究者

導入終了後、初めて柔道に触れる生徒を想定して後ろ受け身、横受け身の授業を行った。危険から身を守る受け身の重要性を伝え、後ろ受け身、横受け身それぞれのポイントを示した。4人組になり、実技、タブレット端末による撮影、教師の示したポイントの観察を行った。評価はポイントを列記したワークシートにしたがって生徒同士で行った。

● 若林俊輔研究者

前時に膝車を習った前提で、支え釣り込み足の授業を展開した。初めて行う技なのでこの時間は技能ではなく、思考・判断、理解を評価する。3人組になり、受け、取り、アドバイスを分担。教師は巡回しながら各グループに技を行わせながら評価した。

● 星野祐樹研究者

膝車、支え釣り込み足及び後ろ受け身、横受け身が既習で、大腰の初回とした。はじめにポイントを挙げ、投げるときはそのまま投げず、腰で持ち上げたら、一度下ろし、受けは取りの足を踏み越えて横受け身をとるよう指導した。本時は技能を評価した。

● 細川晋吾研究者

前年に受け身と固め技を履修した2年生3回目の授業を想定する。まず、後ろ受け身、横受け身を確認した。評価は学習カードを用いて行う。続いて膝車のポイントを説明し、はじめは立膝の体勢から行い、最後を実技テストを受け取り交代で順番に全員が行った。

● 元谷源研究者

前年に8時間柔道授業を受けた2年生男子を想定。本時は思考・判断を見ていく。まずは資料集を見ながら横四方固めを行ってみる。次に教師がポイントを解説。学習カードに教師に習う前と後でどう違うかを記入し、学習カードで評価する。

● 八木保臣研究者

体落としから横転する受け身のテストを行った。ポイントは頭を守る、衝撃を和らげる、足の重なりを防ぐ、の3つ。発表者が受け身をとったら、ポイントを改めて確認し、怪我などの事故を防ぐため、他の生徒は拍手とともに「ご～んしん」と言う。

● 門川俊介研究者

前時に横四方固めを履修し、本時は2回目という想定。はじめに2人組で横四方固めを確認し、次に寝姿勢で片腕を取られた状態からの逃れ方を3人組で考える時間が与えられ、最後に発表した。この時間の評価はうまい子をチェックするだけとした。



続いて、高橋健司研究者が保健体育授業における柔道の基本指導について、田中裕之研究者が新学習

指導要領と柔道について、それぞれ講話を行った。

● 高橋健司研究者

学習を通して体得した柔道の教育効果を生かすための留意点として、①指導した礼法の所作を、学校生活、家庭生活、社会生活の日常で生かす。②大きな声やはっきりした態度で行動する力、指示する力を高める。③危険な状態の察知や、身を守る態勢を心がける。④「精力善用」の姿勢で困難に立ち向かい、「自他共栄」の心で人と接する。の4点を挙げた。

● 田中裕之研究者

新学習指導要領では現在の「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能」、「知識・理解」の4観点から「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3観点に変わることが示された。新学習指導要領が目指すこの考え方は柔道に繋がるとし、すなわち、「知識及び技能」は「精力」に、「思考力、判断力、表現力等」は「善用」に、「学びに向かう力、人間性等」は「自他共栄」に、それぞれ結びつくことが示された。

■ 3 日目 (6 月 18 日)

研究者は3つの分科会(態度、思考・判断、知識・技能)に分かれて研究協議を行った後、まとめを発表した。

続いて、熊野真司研究者が新学習指導要領について、磯村元信研究者が評価について、それぞれ講話を行った。

● 熊野真司研究者

はじめに今後のスケジュール、改正点が紹介され、武道等指導推進事業による柔道の検証授業の結果が示された。中でも愛好的態度、課題解決力、技能の習得が全国平均を大きく上回った成果が発表された。

● 磯村元信研究者

新しい学習指導要領が目指すところは、社会で役立つ資質・能力を涵養することであり、各教科が養う資質・能力が示された。また、学力の3要素を評価の3観点に整理して示し、中でも思考に注目して、批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力という新たな指標を考案していることが紹介された。

最後に閉講式を行い、全日程を終了した。